

千代田塗装工業

社内報

vol.1

2020年
1月15日



山下 幸二

代表取締役社長

千代田塗装工業株式会社の社長として、会社を牽引する山下幸二。個人事業主として塗装に携わる父の姿を、幼い頃から間近で見て育ってきた。そんな父に抱いていた思いや、父と同じ業界に飛び込み社長に就任するまでの経歴に迫る。

サッカーに熱中した学生時代

3人きょうだいの真ん中に生まれた山下は、元気がいっぱいの子どもの時代を過ごした。小学校の頃はいたずらを重ね、親が呼び出されることもあったという。だが、中学校に入った頃から「このままではいけない」と思うようになり、机に向かう時間が増えた。スポーツが好きだったためサッカー部に入学し、毎日の練習にも熱心に取り組んだ。

勉強と部活の両立をこなして高校に入学すると、ここでもサッカー部に入学。練習はとて厳しかったが、良いライバルに恵まれて切磋琢磨しながらボールを追った3年間は、大

切な思い出だ。

レベルの高い選手が多く、山下は試合によってレギュラーであったり補欠であったりしたが、そのぶん試合に出られたときの喜びは大きなものだった。レギュラーの座を競い合ったライバルが試合に出場してゴールを決めたときには、自分のことのように嬉しくて、ベンチから大きな声援を送った。一緒に汗を流して青春時代を送った友人たちとの交流は、今でも続いている。

作業着の父を見て憧れたのは、スーツで働く社会人

父は個人事業主として塗装屋を営んでいた。作業着を着てトラックで出かける父の姿は幼い頃から身近だったが、思春期にはそんな父を恥ずかしく感じる時期もあった。

高校生になると、アルバイトとして現場を手伝うようになる。父の仕事の間近で目にし、「大変な仕事をしているんだな」と尊敬はしたものの、正直なところ憧れは抱けなかった。暑い日も寒い日も、雨の日も風の日

も、作業着を着て現場に出ていく父。自分はそうではなく、スーツを着て働きたい。漠然と、そんな思いを抱いていた。

スーツに袖を通しはしたが……

25歳のとき、父の紹介で千代田塗装工業に入社。営業部に配属され、念願の「スーツを着て働く日々」がやってきた。

しかし、喜びは長くは続かなかった。働きはじめてすぐに、自分の知識や経験の浅さを痛感したのだ。お客様のものを訪れても、対等な立場で話を進めることができない。悔しさに歯を食いしばりながら1〜2年が経った頃、支店長にこう直談判した。

「現場に出させてください！」

あれほど憧れていたスーツを脱ぎ、父と同じ作業着を身につけて現場に立った。監督として一つひとつ知識を身につけ、経験を積み、それ

らを自信に変えていく。数年かけて場数を踏むうちに、どこに行っても誰と会っても、対等に話ができるようになっていった。

『「スーツを着たい」という薄っぺらい理由だけでは、仕事はやっていけないと実感しましたね』

山下は当時をこう振り返る。

失敗をバネに、次の成功へつなげる

苦い思い出もある。30代前半の頃、お客様から厳しい叱責を受けて始末書を書いたときの話だ。若さもあり、山下は「自分だけが悪いのではない」と反発。そのお客様の担当を外されてしまい、「この会社ではもうやっていけない」と退職も考えた。今となっては、自分に少しでも責任や過失があったならば、言い訳をせずに謝らなければならない。当時の自分には謙虚さが足りなかったと、冷静に考えることができる。しかし当時は、なかなかそれができなかった。

その後、別のお客様を担当することになったときには、「もう失敗できない」と強く決心した。そうして誠心誠意対応するうちに、お客様の確かな信頼を勝ち取る。2015年に支店長に就任したときには、お祝いとともにこんな言葉をいただいた。

「うちは千代田塗装じゃなくて、山下塗装に仕事をお願いしているんですよ」

自分の思いが通じ、認められたような気がして、山下はとても嬉しかった。そのお客様とは、現在でもお付き合いが続いている。

塗装の世界で着実にステップアップを重ねた山下。しかし次第に、会社の将来に対し一抹の不安を抱くようになる。

(後編に続く)

企業情報

- ◆ 設立年：1949年10月
- ◆ 年商：9.8億円
- ◆ 従業員数：24名

※2019年2月時点



インタビューを飾ってくださった



山下社長へのメッセージ

今回、巻頭インタビューを飾っていただいた山下社長と親しいお二人に、山下社長の第一印象や、思い出などコメントをいただきました！

山下社長の第一印象と、現在の印象を教えてください。

第一印象は「爽やかな好青年」という感じでした。現在も、相変わらず「千代田塗装工業(株)の幸四郎」。カッコ良さ継続中です！

山下社長との思い出を教えてください。

昨年一年間、業務と並行して、志ネットワーク上甲塾長の下で「青年塾」の活動をしました。その中で、演劇に挑戦されたことは、とても良い思い出です。

ずばり、あなたにとって山下社長とは？

何事にも前向きに対応しようと、心掛けているところです。



前列左が折野さんです！

山下社長の第一印象と、現在の印象を教えてください。

第一印象は、仕事も見た目もスマート！この言葉がピッタリでした。現在もこの言葉が変わりはないのですが、お客さまや協力業者さまへの対応のスマートさに深みが増した感じがします。

山下社長との思い出を教えてください。

これから山下社長とは会社の未来が明るく楽しく強くなるような記憶に残る仕事をして行きたいです。それまでは記憶に残る思い出はないという事をお願いします。

山下社長の尊敬しているところを教えてください。

何事にも前向きに対応しようと心掛けているところです。

山下社長にメッセージをお願いします！

社長になられて責任重大ですが、「前進あるのみ」！何があっても全力でバックアップしますので、大きく逞しく成長してください。



01
折野 恒子さん
にお聞きしました！

02

もりい やすゆき
森井 康行さん
にお聞きしました！



山下社長にメッセージをお願いします！

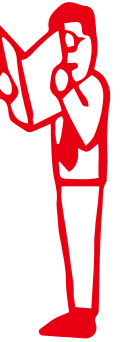
千代田塗装工業株式会社は今年で70周年ということで、長い歴史を先輩方が築いて下さり、鉄道関連塗装工事・橋梁塗装工事のノウハウを私たちに引き継いでくださりました。この歴史と伝統を守りつつ、最先端の塗装会社として、社員一同のリーダーとして、けん引役をよろしくをお願いします。

山下社長の尊敬しているところを教えてください。

やはり、スマートなところです。「スマート」の言葉には、私的に色々という意味があります。その1つが、難しい案件でもお客様や協力業者さまとの間に立って、簡単そうに、関係者に喜んでいただける仕事の進め方をされています。お客様や協力業者さま・社員など、全員に喜んでもらえることを、スマートに熟すところを尊敬していますね。

千代田塗装工業株式会社の社内報を発行することとなりました！

この社内報発行をきっかけに、離れた拠点間でもコミュニケーションが増え、社内の環境改善や生産性向上に繋がればと思っております。普段はなかなか知ることのできない、離れた拠点の業務内容や取り組み、イベントのレポートなど、取材やアンケートを行い、社内報に掲載して参ります。また、社内報をご自宅に持ち帰り、ご家族とお仕事の話をさせていただけるよう、楽しいコンテンツも企画中です！会社の一体感を生み出すことができるような紙面の発行を目指しますので、ご協力の程宜しくお願いします。



社内報活用案

- 仲間同士のコミュニケーションのきっかけとなるツールとして
- 全社の情報共有ツールとして
- 従業員の親御様やお子様など、ご家族に見せるツールとして

インタビュー

毎号、1名ずつ従業員の方のインタビューを実施。第1号・第2号は山下社長に巻頭インタビューを飾っていただきます！

メッセージ

インタビューに掲載された方、親しい方よりいただいたコメントをご紹介！今だから言える第一印象、尊敬しているところ、メッセージなど、掲載された方についてもっと皆様を知っていただけるような内容をお聞きます。

聞いてみました！ 姫路本社・大阪支社

それぞれの支社について、オフィスの雰囲気や、独自の取り組み、注目のスタッフ紹介などを展開していく予定です。あなたも社内報に載る機会があるかもしれません！



掲載したい記事などあればご相談下さい！

よりよい社内報発行のため、ご協力よろしくお願いします！

